

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第19回放送の概要 (2010年6月26日放送)

## パーソナリティ

さくら (安本久美子)  
タロウ (佃 由晃)  
なかちゃん (中嶋邦弘)

## コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



## ミキサー

門ちゃん (門田成延)  
一ノ瀬 悟

## 相談役

わだかん (和田幹司)

## 会計

小山俊則

生徒達も見学しています

(CM) 2010年、おかげさまで創業120年を迎えることができました。ナチュラルであること、ヘルシーであること。そして安全で安心できる製品であること。それは、今も昔も変わらない共進牛乳のモットーです。今日は株式会社共進牧場様のご協力をいただきました。

## 1. オープニング

兵庫高校武陽会の「武陽社会貢献有志の会」はプルタブ、アルミ缶を集め車椅子を施設に贈っています。来週金曜日に4台目を贈ります。平成20年5月の学校創立100周年記念祝賀会の時に1台目を神戸空港ターミナルに、昨年3月武陽ゆうかり館に2台目を、11月に今回と同じ社会福祉法人あおぞらに3台目を贈っています。以前の放送で「1年に1台贈れる様に頑張ります」と言った約束が守れました。これは卒業生だけではなく近所の方、職場の方、サークル仲間など多くの方がたのご協力のおかげです。あおぞらは第9代永松校長の娘さんが運営されている重度障害者施設で、前回贈呈したとき入居者がとても喜んでくださったので次の車椅子も届けると入居者の方と約束し同じ施設に続けて贈ることになりました。

## 2. ゲストコーナー：兵庫高校 江本博明校長先生

江本校長先生のほか大前先生、1年生の生徒さんもスタジオに来られている。江本先生は平成3、4年に兵庫高校の教諭として教鞭をとられた。また教育委員会に計14年間勤務された。鳴尾高校の校長をされた後兵庫高校校長に就任された。

震災時は教育委員会にいたが室内商店街が焼け落ちていたので前に受け持った生徒の家を訪問し安否を確認した。一人だけ安否がわからなかったがその後元気だということがわかりほっとした。

50年ほど前の兵庫高校は女子が2割程度であったが、今は女子のほうが60人多い。1、2年生が女子が多く、3年生は男子が少し多い。

昨年のインフルエンザ騒動について、発生当日といわれていた神戸高校との定期戦には放送スタッフも応援に行っていたが年のせい感染はなかった。

5月16日(土)未明に神戸高校の校長から電話があったが、その後マスコミが大勢押し寄せ、マスコミに翻弄される事態になった。生徒に登校自粛するよう直ちに連絡し、その日の夜10時頃に記者会見をすることになった。職員会議があったがマスコミ対応のため出席できないほどのマスコミの攻勢であった。風評被害については発生当初は電話がかかってくる、TVもそのような内容があっ

た。警備班を作り学校の周りを巡回したが、警備担当の先生が校内の様子を地域住民に伝えることにより理解が得られるようになった。17日からは毎日2回記者会見をするようにしたが、その前には職員会議を毎日2回開き情報を共有し、その結果に基づき記者会見に臨んだ。そうすると皆さんが支援してくれるような雰囲気が出来てきた。記者会見は武陽ゆかり館で行い、校舎とは離れているのでその場所ですべてを対応することが出来たのがよかった。当初他県から神戸はバイキンの塊のように見られていたようなところがあったが、地元の方に話をしたり、HPに毎日12時にたくさんの情報、たとえば校長や担任のメッセージを掲載することにしたことで生徒にもよく声が届き、皆さんからの支援が得られるようになった。全国の高校の校長会で昨年の7月にインフルエンザの対応について話をした時感動していただいた。全国の校長先生の感想は生徒がお互いに励ましあっていること、インフルエンザに罹った生徒をとがめたりすることは一切なく支えあっていたこと、HPで情報が公開されていたので教員が支援に回っていること、危機に対応できていることが評価された。秋の流行の前にこの体験が「生徒のいない二週間—新型インフルエンザ休校の記録」としてまとめられた。

インフルエンザは不幸な出来事であったが生徒達が育った面がある。生徒会長の卒業式の答辞を聞いていると色々な人に世話になった感謝の気持ちが現れていた。日頃色々な活動をしている生徒がきちっと心は耕されて育ってきたと感じた。しんどい思いをしたが友達の大切さ、人の気持ちの暖かさがわかりそれがきちっと言葉になっていた。インフルエンザ事件が兵庫高校や生徒を育てたと思っている。

今の兵庫高校の生徒と他校の生徒を比べて何か違いを感じる点があるかどうかについては、生徒会長の答辞を聞きながら昔と変わらないものがあると思った。兵庫高校は自由な雰囲気があると言われており、その中でしっかりと子どもたちの気持ちが育ってきている。学校行事や友達とのつきあいを経て自由な空気の中で育っている、これが伝統の力であると感じた。一方変わっているものもあって、昔はもっと骨太であったと思う。これは兵庫高校だけのことではなく若い人一般に言えることである。日本青少年問題研究所のアンケート調査を見ると、アメリカ、韓国、中国、日本の比較では望みを持っている、志を持っているかということについて、日本の生徒は少なくなっている。そのあたりを育てたいと思っているが、兵庫高校の中にはそれを育てる空気、雰囲気がまだしっかり残っていると思っている。今までは伝統の力だけでやってきたが、学校行事、たとえば文化祭でこういう力を生徒達につけるんだ、育むんだということを教える側は意識しないとイケない。教員には兵庫高校卒業生が13人いるので今指導の仕方を作り始めている。生徒達の幅を広げてあげたいと思っている。伝統を育てるのは日常では文化祭や体育祭などの学校行事になるが、武陽会の方から話を聞くとか、進路についてはキャリア教育として就労感や勤労感を養うため、心構えや失敗談などを先輩や仕事をしている方から聞いたりすることが必要である。昔は自由で破天荒であったと思うが、自分の思いでやっていきぶつかり考えることがもっと必要である。

アコちゃんのコメント:居酒屋をしているがバイトの国立大学生の一人は優秀だが自分で考えて行動することが殆ど見られない。指示待ちである。やったら出来るのだから希望があるでしょうと言うと、勉強は苦痛でしかないという。自分の子供には近所のおじちゃん、おばちゃんでもいいから人のためになるために勉強しなさいと小さいときから言い続けている。自分のためだけの勉強は行き詰るし、面白くない。

指示待ちの子供が多すぎる。兵庫高校の学校行事は指示を待っていたのでは出来ないの自分で考える。そうするとどこかで頭を打つ。そのような経験が社会に出たときに役に立つ。生徒会長も色んなところで頭を打ってきて配慮の言葉が3年生卒業のときに出てきたと思う。彼もはじめからできていたのではない。女の子と歩いているのを見かけたがその女の子が生徒会長に今日一度噛んだでしょう、しっかりしなさいと言っていた。生徒たちの間で鍛えられている。

先生は2ヶ月に1回開催されている神戸武陽会に殆ど参加されている。その席で武陽会の先輩からコーラス部がなくなったのは何故か、何時なくなったのか、野球部を強くするため支援して欲しい、

ラグビー部や陸上部の部活を強くして欲しいといった話を聞くことが多い。またこの大学に入れて欲しいといった話まである。兵庫高校は夜間高校があるので17時40分には完全下校という大きなハンディがある。そのような中で効率を考えて練習するのが兵庫高校生だと思う。

### 3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

日本キリスト教団神戸教会において7月9日（金）18時30分からジャズピアニストの竹中真さんのコンサートがあります。前売り1800円、当日2000円です。これはインドのナガランド州に水道パイプラインを作るためのチャリティコンサートです。集落から1.5kmはなれたところまで水汲みに行く状況を改善するために7kmのパイプラインを設置します。（社）アジア協会アジア友の会からのお願いです。

灘の酒サマーガーデンが7月5日（月）から9日（金）まで15時から20時まで朝日ビル1階で灘五郷が500円で試飲できます。高校生の皆さんは草楽園やハーバーランドで七夕の飾りつけがあります。

### 4. 来月のゲスト

兵庫高校の大先輩で兵神機械工業会長の友藤秀雄さん（36陽会）にお話を伺います。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：[buyou49@nifmail.jp](mailto:buyou49@nifmail.jp)